

【2022年卒 インターンシップ・就職活動準備の現状に関する調査】
9月時点でインターンシップ参加割合は約47%。
平均参加4社中3社がWebでの参加

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 学）の研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、「2022年卒 インターンシップ・就職活動準備の現状に関する調査」を実施しました。2020年9月時点の調査結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

インターンシップもオンライン化が進む。手法にこだわりすぎず企業理解を深めてほしい


所長 増本全

今回の調査では、2022年卒の学生が「インターンシップについてどのような活動を行ったのか」を調査しました。9月時点でインターンシップに応募した学生は51.9%、参加した学生は46.8%となりました。またインターンシップの参加社数は平均4.03社でした。インターンシップ参加者に、Web開催、対面開催のインターンシップの平均参加社数を聴取したところ、Web開催が3.19社、対面開催のものが1.33社で、Web開催のインターンシップが対面開催のインターンシップの参加社数を上回る結果となりました。新型コロナウイルス禍がまだ続き、企業、学生ともに対面の活動には慎重になっている

様子がうかがえます。学生のコメントを見ると、「オンラインで企業の雰囲気が伝わらない気がする」「対面で参加したいが、中止になってしまい参加できない」というように対面での企業との接触を望む声も聞かれます。反対に「オンラインでの実施が多く不安だったが十分に満足できた」というようにポジティブに受け止める声もありました。インターンシップの機会は今後も続きます。企業と学生の接触の手段に限られる中、今ある機会をどのように活用するかということが、企業、学生の相互理解を深めるカギになりそうです。学生の不安の声には「感染リスクもあり、まだまだ対面で参加するのはこわい」といったものもあります。企業はこれからインターンシップを開催するにあたり、状況に合わせて対面・Webを組み合わせるなど使い分けながら、学生の理解を促進できるようコミュニケーションを工夫する必要があるでしょう。

＊インターンシップには1日の仕事体験型も含む

■活動実施の割合とインターンシップ参加割合（大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答）

(%)

活動実施者		活動予定者	活動予定なし
インターンシップ参加あり	インターンシップ参加なし		
●凡例			
インターンシップの参加割合	46.8	13.1	34.4
	5.6		

 本件に関する
お問合せ先

 株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
 TEL : 03-3211-7117 Mail : kouho@waku-2.com

調査概要

■2022年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査

調査目的：2022年卒学生のインターンシップ・就職活動準備の現状を把握する

調査方法：インターネット調査

調査対象：『リクナビ2022』会員・インテージ社のモニターより、2022年3月卒業予定の大学生および大学院生

調査期間：2020年9月18日～25日

回答者数：大学生 2,043人 大学院生 291人

集計方法：大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近付けるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

◀ 調査結果を見る際の注意点 ▶

- ・ %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計値と計算値が一致しない場合がある
- ・ データは無回答サンプルを除いて集計している
- ・ 2022年卒業を「2022年卒」と表記

◀ 調査の集計について ▶

- ・ 「2020年9月時点での進路の志望状況」の回答で①～⑥を回答した回答者を「就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む」として集計する。

■2020年9月時点での進路の志望状況（大学生／複数回答）

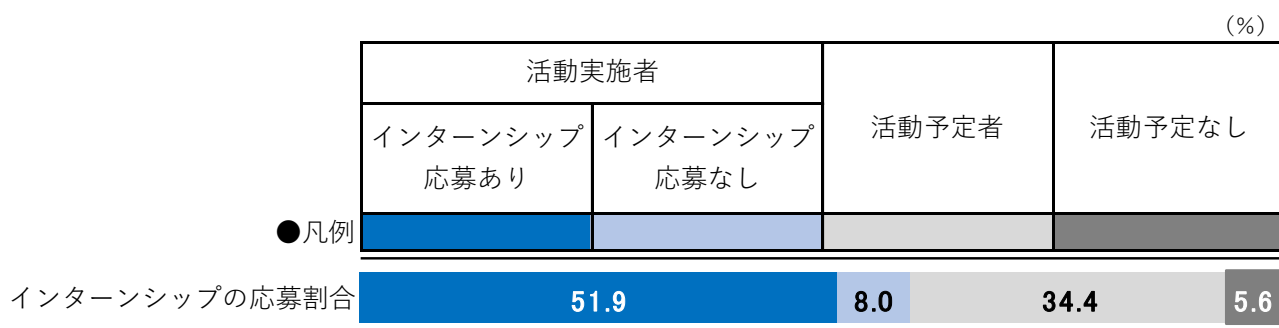
	n数	① まだ志望進路を決めていない	② 民間企業に就職したい	③ 公務員として就職したい	④ 教員として就職したい	⑤ 医師・ 歯科医師・ 看護師として 就職したい	⑥ 公務員・ 教員・医師・ 歯科医師・ 看護師以外 で民間企業 ではない組織・団体に 就職したい	⑦ 起業したい	⑧ 大学院等へ 進学したい	⑨ 留学したい	⑩ 留年するの で 卒業しない	⑪ その他
卒業後の志望進路	2043	16.4%	59.3%	23.2%	6.3%	4.2%	6.6%	4.5%	10.7%	4.1%	1.0%	1.7%

インターンシップへの応募・参加割合

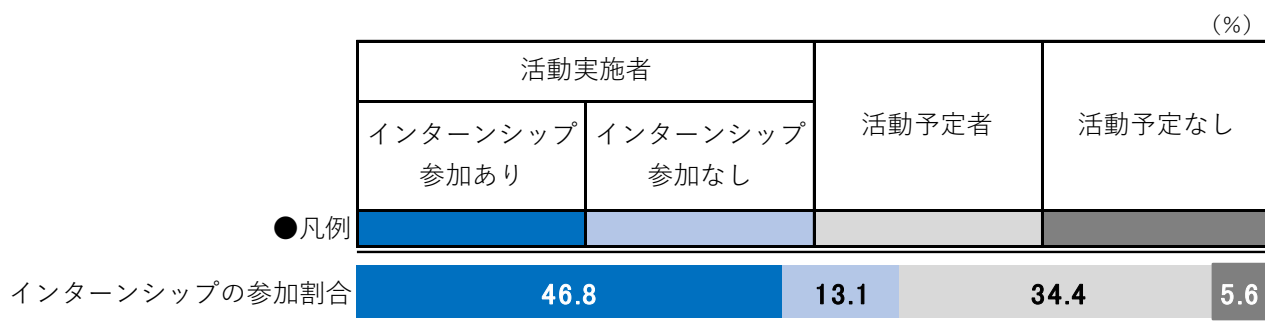
インターンシップに参加した学生は全体の46.8%

インターンシップに応募した学生は就職意向者(まだ志望進路を決めていない含む)全体のうち51.9%であった。またインターンシップに参加した学生は就職意向者(まだ志望進路を決めていない含む)全体の46.8%であった。

■2022年卒) 活動実施の割合とインターンシップ応募割合
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/単一回答)



■2022年卒) 活動実施の割合とインターンシップの参加割合 (再掲)
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/単一回答)



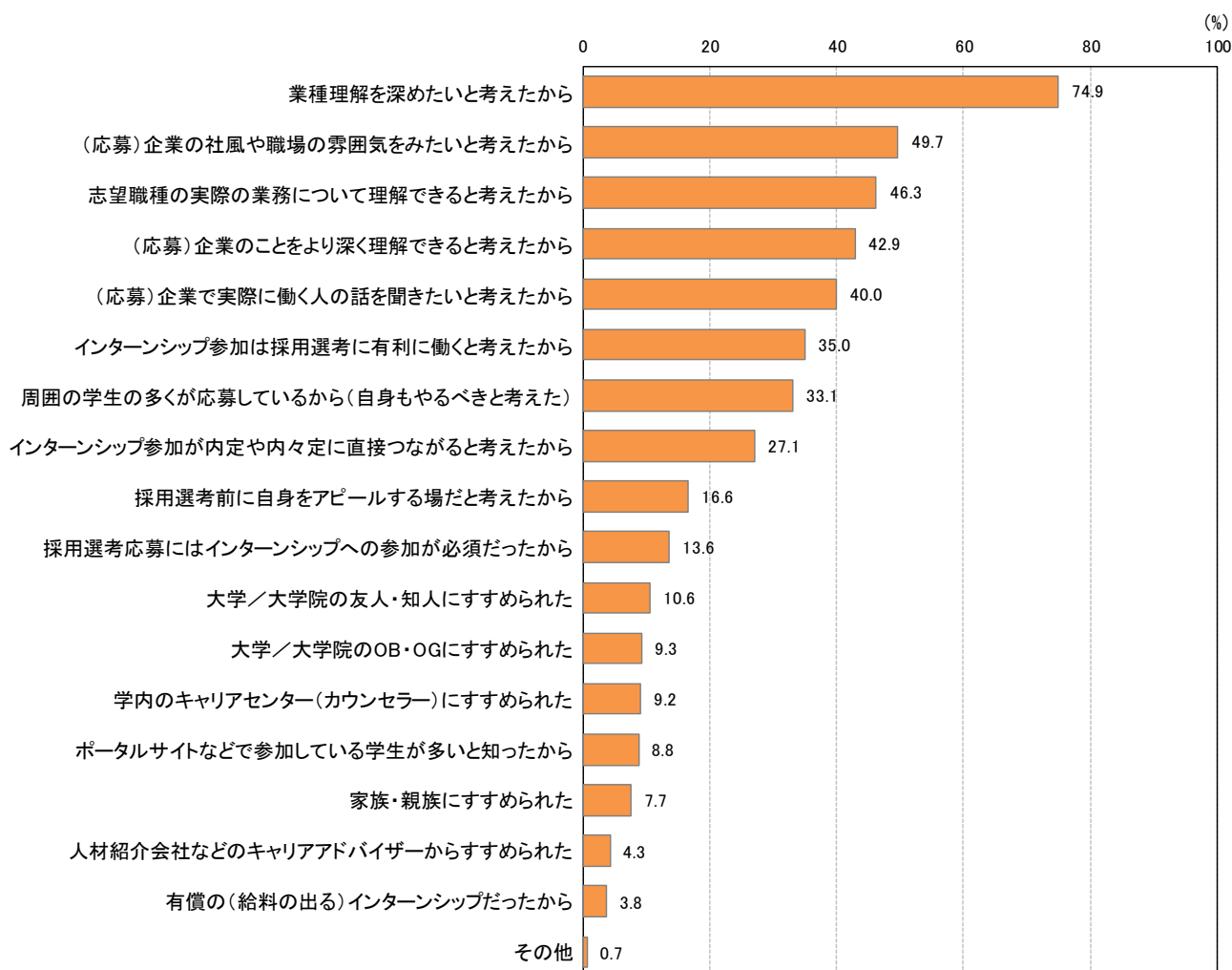
インターンシップに応募したきっかけは「業界理解を深めたいと考えたから」が最多

インターンシップに応募したきっかけを聴取すると、高いものから順に「業界理解を深めたいと考えたから」、「(応募)企業の社風や職場の雰囲気のみたいと考えたから」、「志望業種の実際の業務について理解できると考えたから」であった。

■2022年卒) インターンシップの応募社数・参加社数
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む/数値回答)

	n数	平均数	平均数	
			Web	対面
インターンシップ応募 社数	987	8.12 社	-	-
インターンシップ参加 社数	891	4.03 社	3.19 社	1.33 社

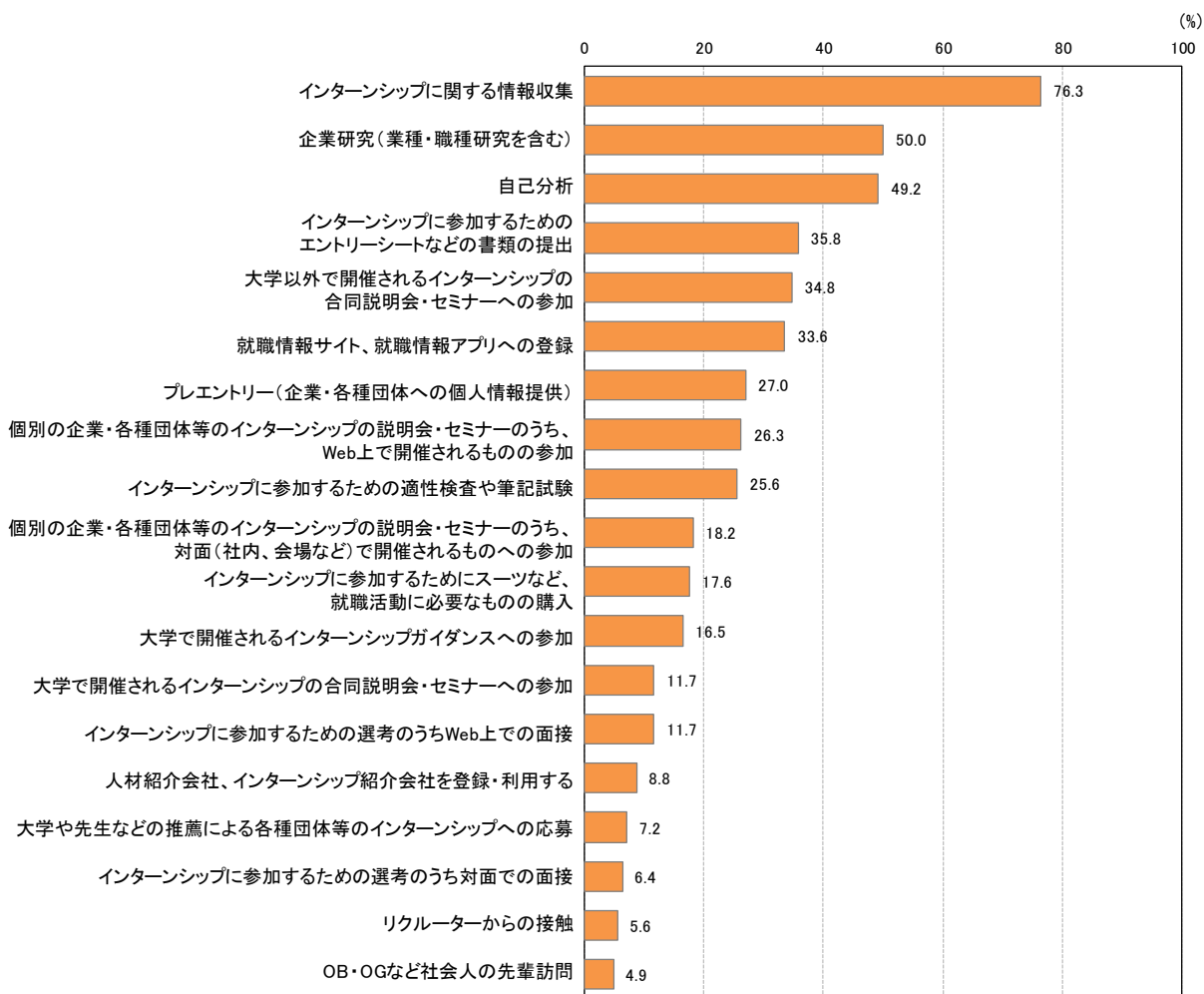
■インターンシップに応募したきっかけ
(大学生・インターンシップ応募者/複数回答)



インターンシップ参加のための準備は「インターンシップに関する情報収集」が最多

インターンシップに参加のための準備を聴取すると、高いものから順に「インターンシップに関する情報収集」、「企業研究（業種・職種研究を含む）」、「自己分析」であった。

■インターンシップ参加のための準備
（大学生・インターンシップ応募者／複数回答）



* 「その他」「あてはまるものはない」を除く

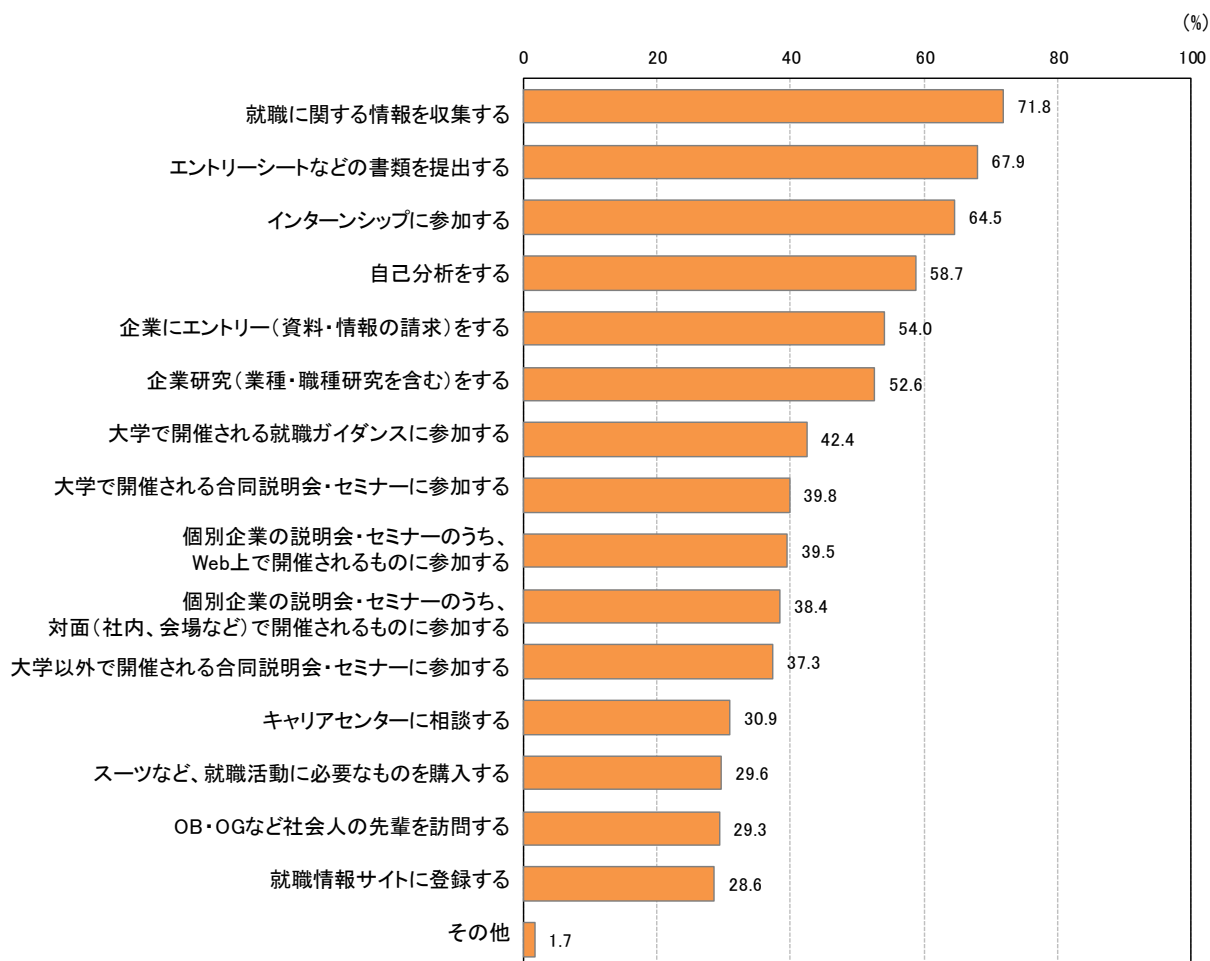
これから実施を予定している取り組み

これから実施を予定している取り組みは「就職に関する情報を収集する」が最多

これから実施を予定している取り組みを聴取すると、高いものから順に「就職に関する情報を収集する」、「エントリーシートなどの書類を提出する」、「インターンシップに参加する」であった。

■これから実施を予定している取り組み

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／複数回答)



* 「この時期での実施は想定していない」を除く

■2022年卒) これからの活動予定について

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・各活動実施予定者／数値回答)

	n数	平均数
インターンシップに参加 社数	1141	6.02 社

インターンシップに対して不安に感じるのは、「オンラインで雰囲気がわからないこと」

インターンシップ参加者に、インターンシップに対して不安に感じることを聴取すると「オンラインばかりで実際の企業の雰囲気がわからない」という形式についての不安の声が聞かれた。また、「対面で参加するのにはまだまだ抵抗がある」のように感染に対しての不安も聞かれた。

■インターンシップに対する不安 (大学生・インターンシップ参加者／自由回答)

コメント	文理・性別	インターンシップ (Web) 参加件数	インターンシップ (対面) 参加件数
緊張したくないと思うとなかなか応募できないが、インターンシップに参加しないと就職活動に間に合わなくなると思うともっと色々調べなくてはいけない。しかし何を調べたいのかもよく分からず焦っている。	理系女性	1	0
対面で参加するのはまだ抵抗があるので、オンラインでできるインターンを申し込んでいます。しかし、社内の雰囲気などはあまり伝わらないのでブラック企業じゃないか不安。	文系女性	2	0
コロナ禍で対面で企業の方や就活生とお会い出来ないこと。選考ありのインターンシップ等は特に、時間をかけて準備をしても、オンライン開催において本当にリアルな情報を得られるかどうか。	文系女性	3	0
対面のインターンシップに参加するには、東京や大阪、名古屋などの都市まで、感染リスクを背負ってまでいかなくてはならず、大都市でしかインターンができない日本のインターン制度に対して、地方都市に住んでいる私が参加できるのか不安である。	文系男性	4	0
コロナということで、オンラインで実施する企業が増え、参加者が増えていると思う。その中で、自分が選考に通れるか不安がある。	文系女性	4	0
対面型インターンに応募したが、どれも感染症拡大を受けて中止になり、対面での緊張感がなく緩い感じだったため就職に繋がる何かを得られた気がしない。	文系男性	7	0
インターンシップにエントリーしたはずの企業から、受付完了メール以外の連絡が未だに（インターンシップの予定日は8月未だだったはず）来ていないこと。他のエントリー先も新型コロナウイルス感染症の流行によりインターンシップが中止になっていたり、東京や大阪での開催であるため親にやめなさいと言われてたりで、今年はインターンシップに参加できていない。三年生なので心配だ。	文系女性	0	1
落ちたインターンのフィードバックがほしい。	文系女性	2	1
コロナの影響で急にオフライン開催→オンライン開催のように予定が変更してしまわないかが不安。オフラインでの開催の方が雰囲気などを肌で感じ取れるという理由で選んでいるから。	文系女性	1	4
対面の場合にコロナ感染対策ができていくかどうか。	文系女性	3	3
とりえず数カ所、1dayのインターンシップに参加しているが、学校も行けずキャリアセンターを頼らないため、情報の取捨選択が難しい。インターンシップに参加した企業全てがよく見えてしまっている。自己分析も進めているが、自分一人だけでは今やっていることが正しいのか間違っているのか。進みはいいのか悪いのか。全く分からなくて不安。	文系女性	5	1
オンラインばかりで実際の企業の雰囲気がわからないことが不安です。	文系女性	9	6
関東住まいのため、このコロナ禍で他県で対面のインターンシップに行ってもいいのかが不安。	理系女性	0	0
オンラインのため通信環境が悪い参加者がいると、復旧のための時間がかかり、時間内に終わらないことがほとんどだった。	理系男性	4	0
自宅では落ち着いてインターンが行えないため、対面でのインターンで行いたいと思った。オンライン上での緊張感と対面での緊張感は少し違うものにも思えたから。	理系男性	2	2
社会情勢を鑑みると対面の開催には躊躇してしまう。しかし、オンライン上では若干の物足りなさを感じ、トレードオフの関係にあると感じている。	文系男性	4	0

参加してみて感じたことは、前向きな声も多い

インターンシップに実際に参加してみて感じたことや今後取り組みたいと思ったことを聴取すると「秋以降も時間があれば、いろいろな業界のインターンに応募・参加してみたい」や、「オンライン上でも十分に満足できるグループワークができることがわかった」というように前向きな声も聞かれた。

■インターンシップに対する考え・感想
(大学生・インターンシップ参加者／自由回答)

コメント	文理・性別	インターン シップ (Web) 参加件数	インターン シップ (対面) 参加件数
オンラインでは交通費もかからず、移動手段について考える必要もないので、インターンに集中できる。	文系女性	6	0
オンラインの強みは手軽に参加出来ることなので興味のない分野も参加してみたいと思った。	文系女性	1	0
WEB上でも、実際に社員の人々とコミュニケーションを取ることで、希望している職種に対する興味を持つことができた。	文系女性	1	0
存在は知っていても実際には何も知らない会社や業界があったり、存在すら知らない業界があったりすることを知った。インターンに参加しなくても自分で調べたいと思ったし、ただ就活に直結するからという意味でなくてもインターンに参加することは人生の経験として楽しいものだった。	文系女性	2	3
今まで名前を知らなかった企業や、事業内容を詳しく知らなかった業界の仕事を知ることができたのが良かったです。秋以降も時間があれば、いろいろな業界のインターンに応募・参加してみたいと思います。	文系女性	2	0
他大学の学生と一緒に活動することで、自分が持っているスキル、足りない能力を確認することができた。また、意見交換等もすることができ、いい経験になった。	理系男性	2	0
実際に新規事業を企画したり、業務を体感することでより楽しさを感じられることがわかりました。	文系女性	2	1
参加前は職場の雰囲気や業務内容がほとんど分からずただただ不安だったが、実際に参加してみると雰囲気もよく、感じていた不安は杞憂だったのだと思えたため、不安があっても、とにかく参加してみることが重要なのだと知ることができた。	理系男性	0	2
オンラインでの実施が多く、対面のプログラムよりも業務体験の質が劣るのではないかと心配していたが、オンライン上でも十分に満足できるグループワークを実践できることがわかった。	理系女性	3	0
自分自身がどういった仕事に就きたいのかさらに考えるきっかけになったり、人事の方からフィードバックをいただいたことで自分の強みを知ることが出来たので参加して良かったと思いました。	文系女性	0	1
オンラインでのグループワークは、誰が話し出すかなど分かりづらく難しい点もありますが、やはりグループワーク、ディスカッションは能動的になれて良いと思う。	文系女性	2	0
インターンシップに参加することで実際にどのような仕事をするのかや、職場の雰囲気を知ることができ、志望度がより高まった。	理系男性	1	2
企業の雰囲気や仕事内容について知ることができ、また業務を実際に体験できて良かった。	理系男性	2	3
実際に社員の方とお話することで、社員同士の仲の良さや雰囲気を知ることができました。実際に行けばより深く知ることができると思うので、機会があれば対面のオンラインにも参加したいです。	理系女性	1	0